

証券コード 6379

レイズネクスト株式会社 決算説明会資料

2020年3月期

レイズネクスト株式会社

目 次

1. 2020年3月期の事業環境	・ ・ ・ 3	9. 特別損益・当期純利益	・ ・ ・ 11
2. 2020年3月期の業績概要	・ ・ ・ 4	10. 貸借対照表	・ ・ ・ 12
3. 受注高の工事種類別内訳	・ ・ ・ 5	11. キャッシュ・フロー	・ ・ ・ 13
4. 完成工事高の工事種類別内訳	・ ・ ・ 6	12. 2021年3月期の事業環境	・ ・ ・ 14
5. 受注残高	・ ・ ・ 7	13. 2021年3月期の業績見通し	・ ・ ・ 15
6. 総利益	・ ・ ・ 8	14. 受注高及び完成工事高の内訳	・ ・ ・ 16
7. 営業利益	・ ・ ・ 9	15. 配当について	・ ・ ・ 17
8. 営業外損益・経常利益	・ ・ ・ 10	16. 第1次中期経営計画の進捗状況について	・ ・ ・ 18

1. 2020年3月期の事業環境

- 国内経済は雇用・所得環境の改善が続く中で、全体的には緩やかな回復基調で推移
- 年度の終盤に新型コロナウイルス感染症の発生・拡大により、景気は大幅に下押し
- 海外経済は米中貿易摩擦、英国のEU 離脱、中東の地政学リスク等に加え、
新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による経済活動の大幅な縮小が懸念
- 石油業界では、燃費改善などの構造的な要因から国内需要は減少傾向。
その対応として、精製能力の削減や稼働率の調整を実施
- 石油化学業界では、国内のエチレン生産設備の稼働率は高い水準で維持。
- 石油・石油化学業界とも、第4四半期に発生した新型コロナウイルス感染症拡大の影響による
製品需要の急速な減少が懸念
- 非鉄金属業界では、銅価の下落やスマートフォン関連需要の在庫調整の影響
- 当期（2020 年3月期）も定期修理工事が堅調に推移する中、プラント強靱化対策、経年化対策
や安定稼働のための改造・改修工事や高機能製品の生産のための新規プラント建設工事などの
受注確保に取り組む
- 材料費や人件費、外注加工費の上昇要因に対して、直接工事費や経費の削減などにより
個々の工事における収益性の向上に努める
- 当期の業績における新型コロナウイルス感染症の影響はほぼない

2. 2020年3月期の業績概要（連結）

（単位：百万円）

（参考）

（単位：百万円）

	2/6発表値	2020.03	発表値比	増減率
受 注 高	166,000	165,404	-595	-0.4%
完 成 工 事 高	140,000	140,578	+578	+0.4%
総 利 益	16,300	16,840	+540	+3.3%
(率)	11.6%	12.0%	+0.4%	-
一 般 管 理 費	6,500	6,800	+300	+4.6%
(率)	4.6%	4.8%	+0.2%	-
営 業 利 益	9,800	10,040	+240	+2.4%
(率)	7.0%	7.1%	+0.1%	-
経 常 利 益	9,950	10,239	+289	+2.9%
(率)	7.1%	7.3%	+0.2%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,850	12,258	+408	+3.4%
(率)	8.5%	8.7%	+0.2%	-
1株当り当期純利益	218.76円	234.86円	+16.10円	+7.4%
受 注 残 高	56,193	54,946	-1,247	-2.2%

前期（2019.03）との差異		
	前期比	増減率
104,588	+60,815	+58.1%
97,331	+43,247	+44.4%
11,984	+4,856	+40.5%
12.3%	-0.3%	-
4,300	+2,499	+58.1%
4.4%	+0.4%	-
7,683	+2,356	+30.7%
7.9%	-0.8%	-
7,939	+2,299	+29.0%
8.2%	-0.9%	-
5,225	+7,032	+134.6%
5.4%	+3.3%	-

注)上記の率は2020年3月期
実績値との増減比です。

特記事項

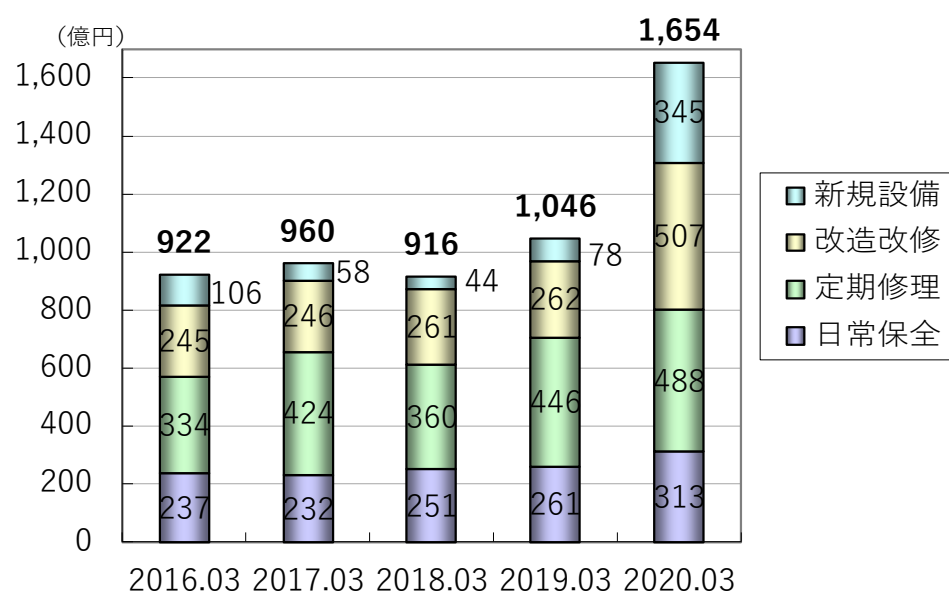
- ① 2019年7月1日に経営統合したため、2020年3月期は旧新興プランテックの1年分と旧JXエンジニアリングの9か月分。
- ② 受注高の前期比での大幅な増加は、旧JXエンジニアリングの6月末の受注残高をレイズネクストの受注高として7月1日に受け入れたことによるもの。
- ③ 当期純利益の大幅な増加は、経営統合により発生した負ののれん発生益を特別利益に計上したことによるもの。

3. 受注高の工事種類別内訳（連結）

（単位：百万円）

受注高	2/6想定値	2020.03	想定値比	増減率	2019.03	前期比	増減率
日常保全工事	30,000	31,281	+1,281	+4.3%	26,050	+5,230	+20.1%
定期修理工事	48,900	48,840	-59	-0.1%	44,567	+4,273	+9.6%
改造改修工事	45,400	50,747	+5,347	+11.8%	26,178	+24,569	+93.9%
新規設備工事	41,700	34,533	-7,166	-17.2%	7,791	+26,742	+343.2%
エンジニアリング業	166,000	165,404	-595	-0.4%	104,588	+60,815	+58.1%

過去5年間の受注高の推移



- 2/6想定値から5億円の減少
- JXエンジニアリングとの合併により、前期比で608億円の増加

【日常保全工事】

- ① 全体的な工事量の増加

【定期修理工事】

- ① 工事量の増加があったが、2021年3月期に受注がズレた工事もあり、ほぼ想定値どおり

【改造・改修工事】

- ① 当初、想定していなかった工事の受注獲得などによる増加

【新規設備工事】

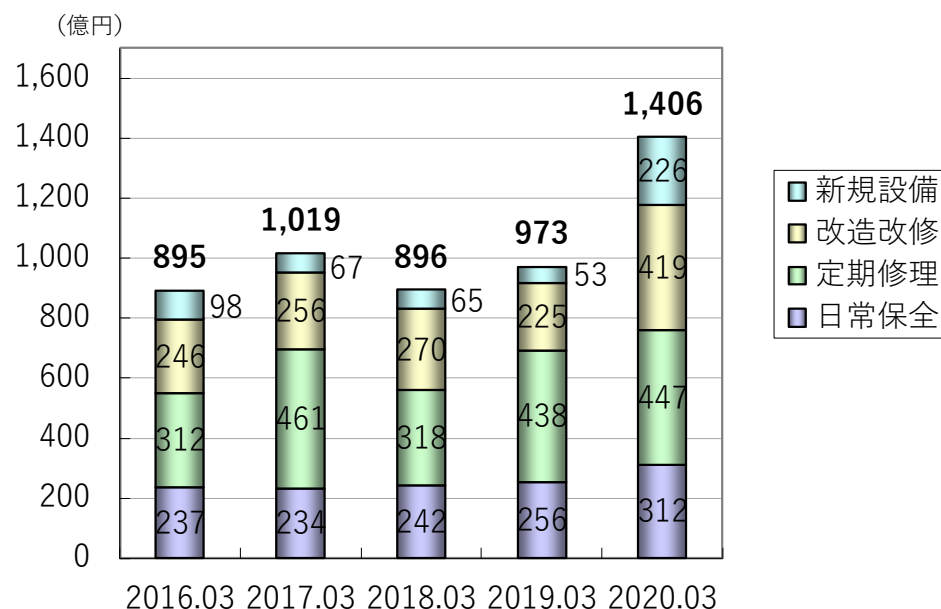
- ① 当初、想定していた工事の延期・中止などによる減少

4. 完成工事高の工事種類別内訳（連結）

（単位：百万円）

完成工事高	2/6発表値	2020.03	発表値比	増減率	2019.03	前期比	増減率
日常保全工事	29,100	31,228	+2,128	+7.3%	25,571	+5,657	+22.1%
定期修理工事	40,200	44,684	+4,484	+11.2%	43,813	+870	+2.0%
改造改修工事	43,500	41,947	-1,552	-3.6%	22,476	+19,470	+86.6%
新規設備工事	27,000	22,598	-4,401	-16.3%	5,333	+17,264	+323.7%
エンジニアリング業	139,800	140,458	+658	+0.5%	97,195	+43,263	+44.5%
その他事業	200	120	-79	-40.0%	136	-16	-12.0%
合 計	140,000	140,578	+578	+0.4%	97,331	+43,247	+44.4%

過去5年間の完成工事高の推移



- 完成工事高は発表値比で5億円の増加
- JXエンジニアリングとの合併により、前期比で432億円の増加

【日常保全工事】

- ① 全体的な工事量の増加

【定期修理工事】

- ① 全体的な工事量の増加
- ② 2021年3月期に完成予定であった工事の一部が2020年3月期に完成

【改造・改修工事】

- ① 工事の売上計上が2021年3月期にズレたことなどにより減少

【新規設備工事】

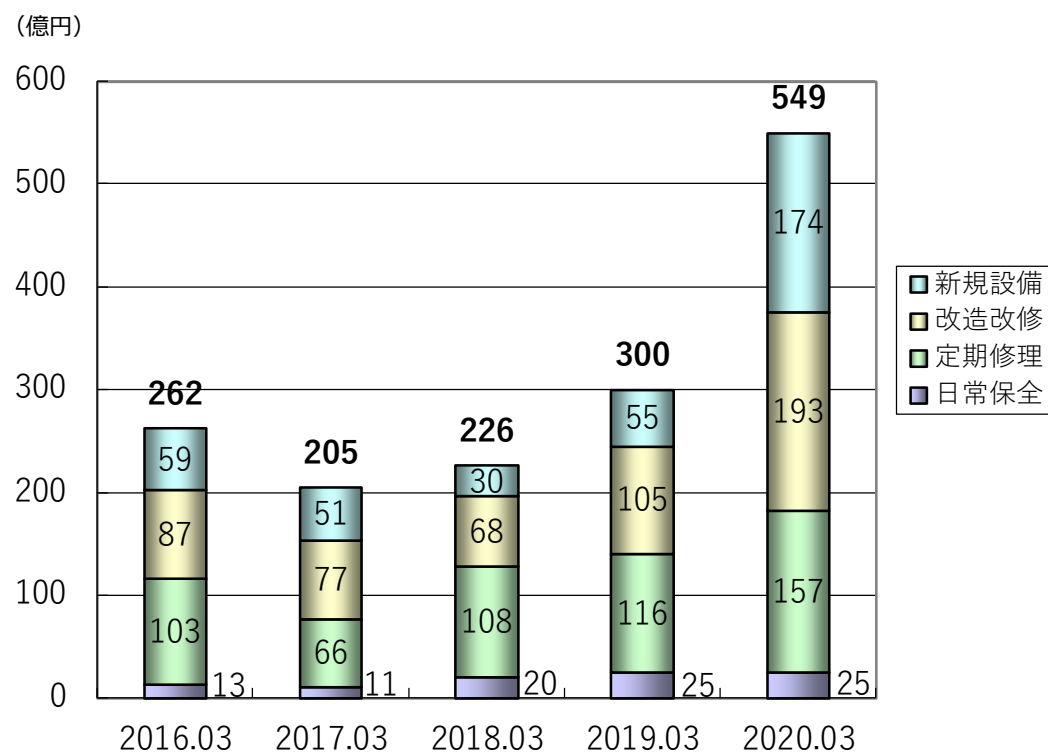
- ① 工事の売上計上が2021年3月期にズレたことなどにより減少

5. 受注残高（連結）

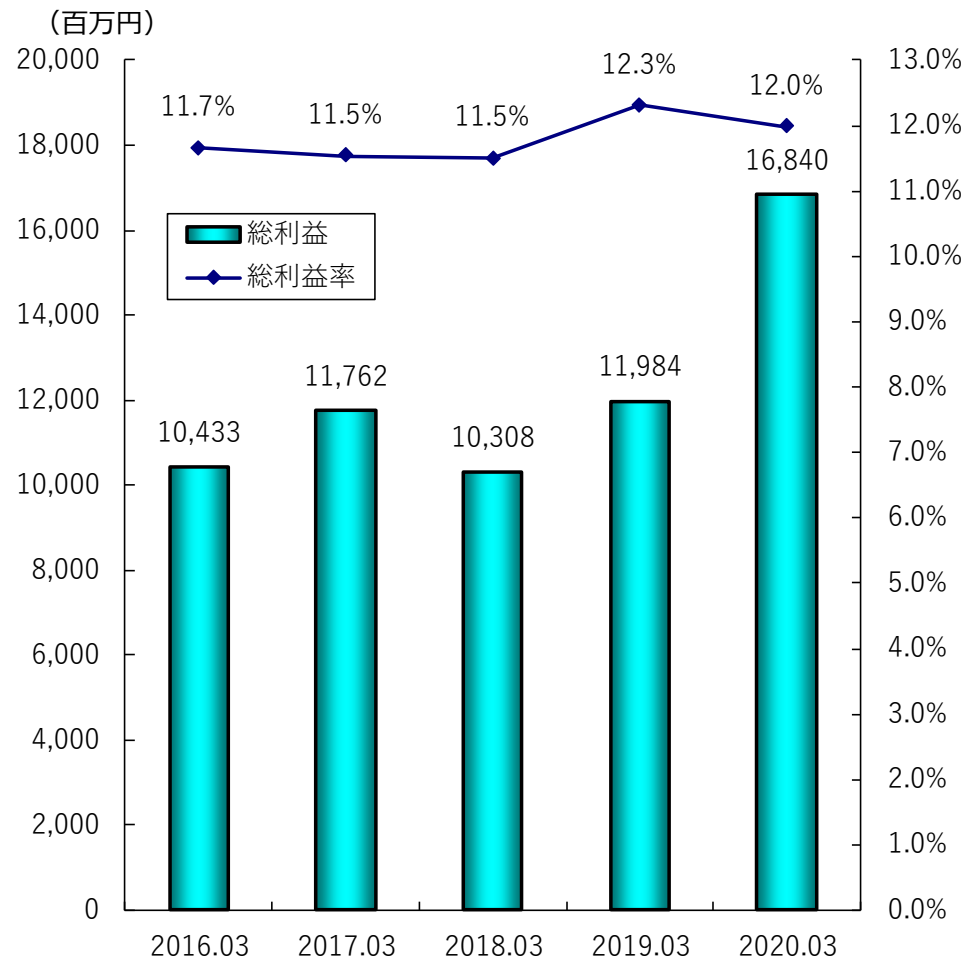
【過去5年間の受注残高の推移】

（単位：百万円）

	2016.03	2017.03	2018.03	2019.03	2020.03
日常保全工事	1,298	1,102	2,008	2,463	2,493
定期修理工事	10,277	6,597	10,798	11,552	15,715
改造改修工事	8,716	7,690	6,793	10,487	19,288
新規設備工事	5,916	5,078	3,006	5,490	17,448
合 計	26,209	20,469	22,607	29,993	54,946



6. 総利益（連結）



●総利益は168億4千万円。前期比 40.5%の増加

●2/6発表値 163億円に対しては、3.3%の増加

●総利益率は前期の12.3%から12.0%と0.3ポイント低下、
2/6発表値の利益率11.6%から0.4ポイント上昇

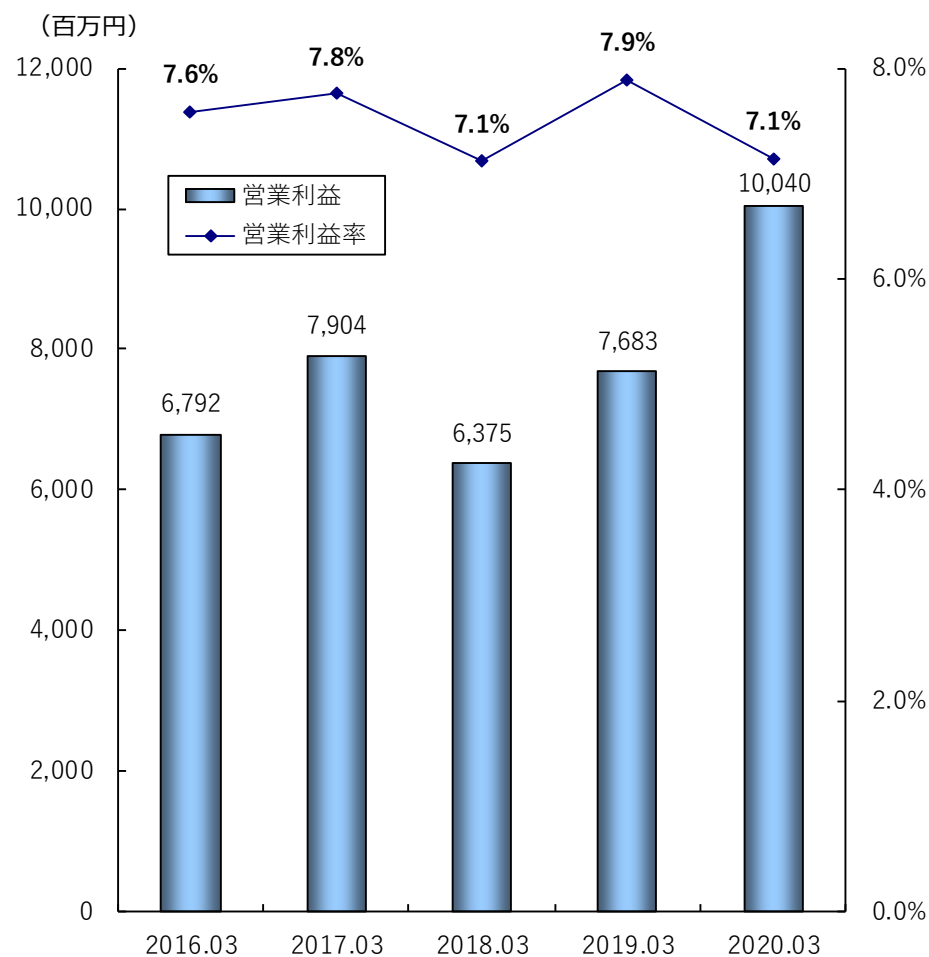
要因：

●合併に伴う総利益額の押し上げにより前期比で大幅増

●下期に収益性の低い大型工事の売上計上があったものの、
全体的な工事量の増加による作業効率の向上、間接コスト
の圧縮など、継続的なコスト削減を図り、収益を確保

●子会社の利益貢献

7. 営業利益（連結）



- 一般管理費は、合併により特別に支出した費用（約6億7千万円）や新規子会社の連結による増加などもあり、68億円
- 営業利益は100億4千万円。前期比 30.7%の増加
- 2/6発表値98億円に対しては、2.4%の増加
- 営業利益率は前期の7.9%から7.1%へ0.8ポイント低下

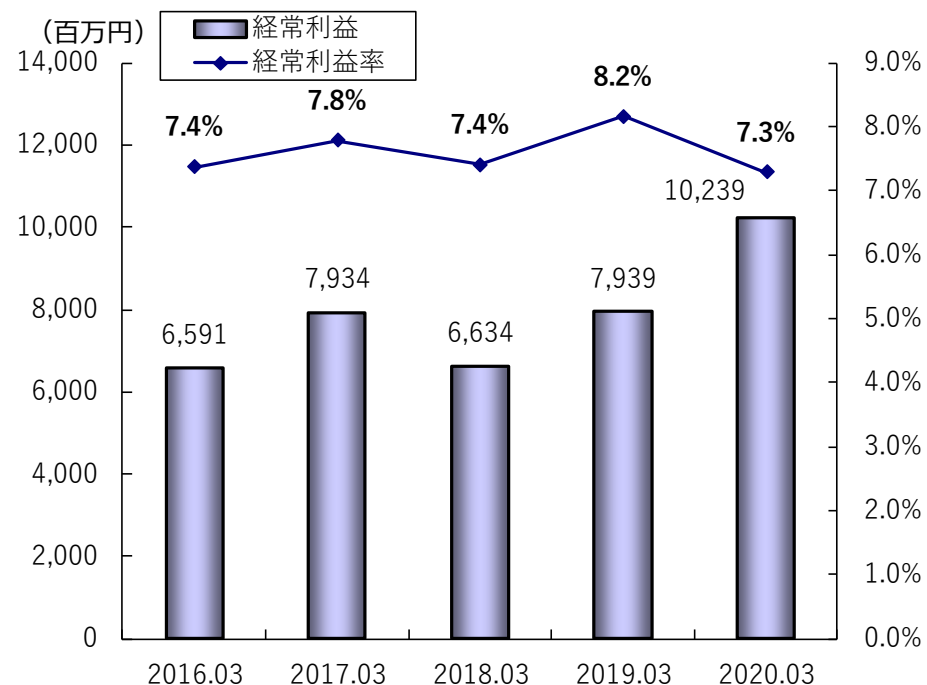
8. 営業外損益・経常利益（連結）

【営業外損益】

（単位：百万円）

	2019.03	2020.03	前期比
【営業外収益】			
受 取 利 息	3	5	+1
受 取 配 当 金	130	141	+11
受 取 割 引 料	41	5	-35
受 取 賃 借 料	91	93	+2
そ の 他	42	154	+112
計	309	401	+92
【営業外費用】			
支 払 利 息	4	44	+40
賃 貸 費 用	10	11	+0
為 替 差 損	8	76	+67
そ の 他	29	69	+39
計	53	202	+148
【営業外損益】	+255	+199	-56

【経常利益】



- 経常利益は102億3千万円。前期比 29.0%の増加
- 2/6発表値99億5千万円に対しては、2.9%の増加
- 経常利益率は前期の8.2%から7.3%へ0.9ポイント低下

9. 特別損益・当期純利益（連結）

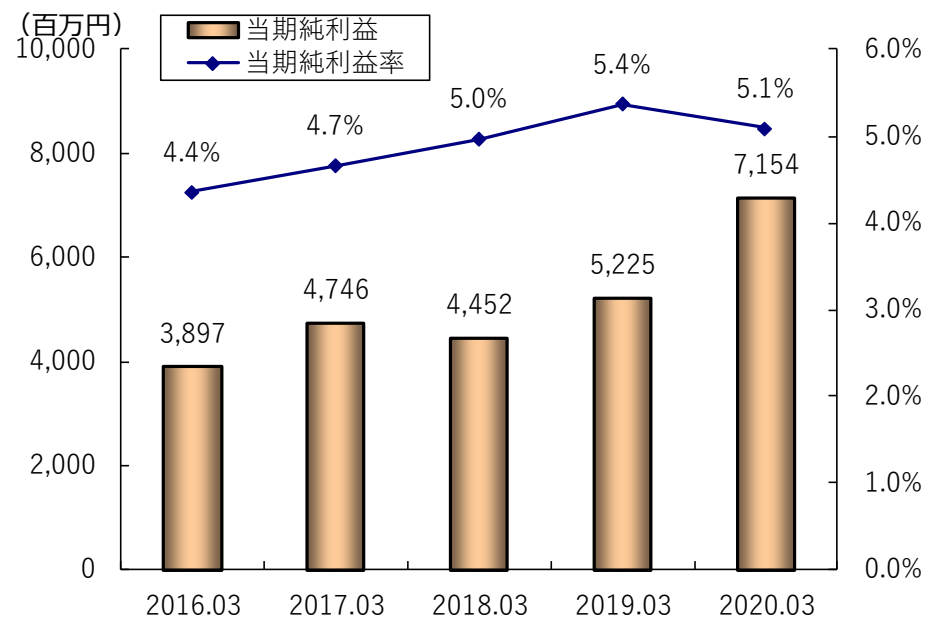
【特別損益】

（単位：百万円）

	2019.03	2020.03	前期比
【特別利益】			
固定資産売却益	1	4	3
投資有価証券売却益		555	+555
負ののれん発生益		5,103	+5,103
計	1	5,663	+5,661
【特別損失】			
固定資産売却損	0	0	+0
固定資産除却損	1	14	+12
投資有価証券評価損	89	14	-75
ゴルフ会員権評価損		4	+4
計	91	33	-58
【特別損益】	-90	+5,629	+5,719

- 経営統合により特別利益に「負ののれん発生益」51億円を計上
- 第2四半期決算で計上した55億3千万円より、退職給付費用の再計算の結果、引当不足の分を負ののれん発生益から減額したことに伴い、4億2千万円減少
- 投資有価証券売却益5億5千万円を計上

【親会社株主に帰属する当期純利益】



注）上図のグラフの2020.03の数値は負ののれん発生益を除いた当期純利益となっております。

- 親会社株主に帰属する当期純利益は122億5千万円
前期比134.6%の増加（純利益率は8.7%）
- 負ののれん発生益を除いた親会社株主に帰属する
当期純利益は71億5千万円（前期比36.9%増）
- 2/6発表値118億5千万円に対しては、3.4%の増加

10. 貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2019.03		2020.03		増減		2019.03		2020.03		増減
	実績	構成比	実績	構成比			実績	構成比	実績	構成比	
【流動資産】	63,007	78.6%	76,951	77.5%	+13,943	【流動負債】	29,845	37.2%	26,661	26.8%	-3,184
現金預金	16,954	21.2%	6,456	6.5%	-10,498	仕入債務	23,719	29.6%	12,876	13.0%	-10,843
売上債権	39,850	49.7%	55,293	55.7%	+15,443	短期借入金	205	0.3%	4,251	4.3%	+4,046
未成工事支出金	6,020	7.5%	12,120	12.2%	+6,099	未成工事受入金	535	0.7%	179	0.2%	-356
その他	182	0.2%	3,081	3.1%	+2,898	その他	5,385	6.7%	9,354	9.4%	+3,968
【固定資産】	17,147	21.4%	22,397	22.5%	+5,249	【固定負債】	2,321	2.9%	4,867	4.9%	+2,546
有形固定資産	11,069	13.8%	12,888	13.0%	+1,819	長期借入金	53	0.1%	30		-22
無形固定資産	271	0.3%	1,186	1.2%	+915	退職給付に係る負債	1,984	2.5%	4,390	4.4%	+2,405
投資その他の資産	5,807	7.2%	8,322	8.4%	+2,514	その他	283	0.4%	446	0.4%	+163
						【負債合計】	32,167	40.1%	31,529	31.7%	-637
						【純資産】	47,988	59.9%	67,819	68.3%	+19,831
						（内 非支配株主持分）	(865)	(1.1%)	(1,004)	(1.0%)	(+139)
【資産合計】	80,155	100.0%	99,348	100.0%	+19,193	【負債・純資産合計】	80,155	100.0%	99,348	100.0%	+19,193

自己資本比率（連結） 67.3%

自己資本当期純利益率（ROE・連結） 12.6%

注）自己資本当期純利益率（ROE・連結）は
負ののれん発生益を除いて計算しております。

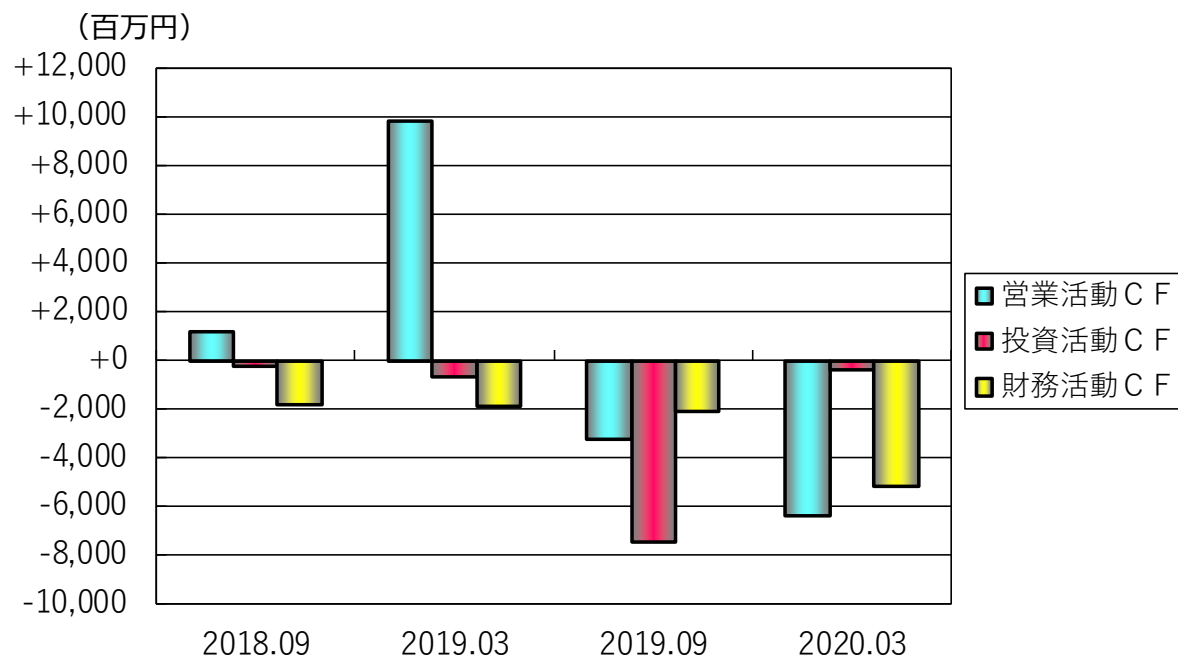
11. キャッシュ・フロー（連結）

（単位：百万円）

	2018.09	2019.03	2019.09	2020.03
営業活動 C F	+1,198	+9,842	-3,202	-6,384
投資活動 C F	-227	-681	-7,463	-360
財務活動 C F	-1,842	-1,893	-2,121	-5,142
現金及び現金同等物に係る換算差額	-17	-23	-3	-6
現金及び現金同等物の増減額	-888	+7,243	-12,790	-11,893

特記事項

連結範囲の変更および合併に伴う現金及び現金同等物の増加が14億4千万円あった



12. 2021年3月期の事業環境の見通し概況

- 世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による経済への影響は甚大であると想定
- 感染収束の見通しが立たない中、当社グループの事業においては、工事の中断・延期、工事従事者の確保等のリスクを抱える
- プラントメンテナンス分野では、石油・石油化学業界において定期修理工事がピークを迎え、これらのリスクに対処しながら、完工させることが最優先課題
- 設備の点検や補修などの現場作業だけでなく、保全業務全般に係る計画の立案から管理・遂行までトータルでサポートを行う体制を強化
- プラント建設分野では、一般化学分野等において高機能製品生産のための投資も計画
- 顧客の事業計画段階からの参画や支援体制の強化などによるソリューション型サービスによりこれらの投資案件の受注を目指す
- 「第1次中期経営計画－RAIZNEXT SYNERGY POWER」に基づき、2020年3月期から2021年3月期までの2年間で統合シナジー効果創出のための融合期間と捉え、各計画を着実に実行する

13. 2021年3月期の業績見通し（連結）

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	中 間 期				通 期				第1次中期計画最終年度目標		
	2019.09実績	2020.09予想	増減	増減率	2020.03実績	2021.03予想	増減	増減率	2021.03目標	差異	増減率
受 注 高	101,090	75,000	-26,090	-25.8%	165,404	145,000	-20,404	-12.3%	145,000	-	-
完 成 工 事 高	58,216	75,000	+16,783	+28.8%	140,578	145,000	+4,421	+3.1%	145,000	-	-
総 利 益	7,569	7,500	-69	-0.9%	16,840	15,750	-1,090	-6.5%			
(率)	13.0%	10.0%	-3.0%	-	12.0%	10.9%	-1.1%	-			
一 般 管 理 費	3,367	3,300	-67	-2.0%	6,800	6,350	-450	-6.6%			
(率)	5.8%	4.4%	-1.4%	-	4.8%	4.4%	-0.4%	-			
営 業 利 益	4,202	4,200	-2	-0.1%	10,040	9,400	-640	-6.4%	9,400	-	-
(率)	7.2%	5.6%	-1.6%	-	7.1%	6.5%	-0.6%	-	6.5%	-	-
経 常 利 益	4,332	4,300	-32	-0.7%	10,239	9,600	-639	-6.2%	9,600	-	-
(率)	7.4%	5.7%	-1.7%	-	7.3%	6.6%	-0.7%	-	6.6%	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,327	2,800	-5,527	-66.4%	12,258	6,300	-5,958	-48.6%	6,300	-	-
(率)	14.3%	3.7%	-10.6%	-	8.7%	4.3%	-4.4%	-	4.3%	-	-
1株当たり当期(中間)純利益	165.83円	51.69円	-114.14円	-68.8%	234.86円	116.31円	-118.56円	-50.5%			
受 注 残 高	72,942	55,046	-17,895	-24.5%	54,946	55,146	+200	+0.4%			

注)第1次中期経営計画最終年度目標に記載
の差異および増減率は、2021年3月期
予想値との差異および増減比です。

注) 新型コロナウイルスによる影響を合理的に算出することが困難なことから、
業績見通しには織り込んでおりません。

14. 受注高及び完成工事高の内訳（連結）

受注高

（単位：百万円）

		2020.03	2021.03			増減	増減率
		通期	上期	下期	通期		
	日常保全工事	31,281	13,900	13,700	27,600	-3,681	-11.8%
	定期修理工事	48,840	21,500	17,200	38,700	-10,140	-20.8%
	改造改修工事	50,747	26,900	20,200	47,100	-3,647	-7.2%
	新規設備工事	34,533	12,700	18,900	31,600	-2,933	-8.5%
エンジニアリング業		165,404	75,000	70,000	145,000	-20,404	-12.3%

完成工事高

（単位：百万円）

		2020.03	2021.03			増減	増減率
		通期	上期	下期	通期		
	日常保全工事	31,228	13,500	14,300	27,800	-3,428	-11.0%
	定期修理工事	44,684	29,300	19,400	48,700	+4,016	+9.0%
	改造改修工事	41,947	19,500	25,900	45,400	+3,453	+8.2%
	新規設備工事	22,598	12,600	10,300	22,900	+302	+1.3%
エンジニアリング業		140,458	74,900	69,900	144,800	+4,342	+3.1%
その他事業		120	100	100	200	+80	+66.7%
合 計		140,578	75,000	70,000	145,000	+4,422	+3.1%

15. 配当について

配当に関する基本認識

当社グループの事業は、石油・石油化学・非鉄金属等のプラント関連のメンテナンス事業およびエンジニアリング事業を基盤としており、民間設備投資の増減に影響され易い受注産業に属しております。事業の性格を踏まえ、経営環境の変化と今後の事業の展開に備えて企業体質の強化を図り、安定的な経営基盤を構築することが企業価値を増大させ、ひいては、株主、顧客、取引先、社員等の各関係者の将来的な利益を確保することに繋がるものであるということを基本方針としております。

配当方針

基本方針のもと、株主に対する利益配当に関しましては、経営の最重要課題と位置づけ、収益に対応した配当施策を実施すべきものと考え、配当の継続性および安定性という面にも充分留意し、強固な事業基盤と将来の事業拡大に必要な内部留保を確保した上で、40%以上の配当性向（連結）を目標といたします。

2020年3月期配当予定

●期末配当 53円 （連結配当性向 40.1%）

配当予想につきましては、経営統合に係る損益である負ののれん発生益は除いて算出しております。

また、連結配当性向につきましては以下のとおり算出しており、40.1%となります。

連結配当性向 = { 配当金総額 ÷ 連結当期純利益予想（負ののれん発生益を除く） } × 100

2021年3月期配当予想

●期末配当 47円 （連結配当性向 40.4%）

第1次中期経営計画の進捗状況について (2020年3月期)

テーマ・対象期間・基本方針

テーマ・対象期間

【RAIZNEXT SYNERGY POWER】

第1次中期経営計画（2019年度から2020年度）

シナジー効果創出のための融合

第2次中期経営計画（2021年度から2024年度）

シナジー効果創出

基本方針

経営基盤の強化

エンジニアリング事業の強化

メンテナンス事業の強化

タンク事業の強化

シナジー効果

統合によるシナジーとして次の事項を目標とし、**2025年3月期までの累計で、売上高200億円以上、経常利益20億円以上**の実現を目指す。

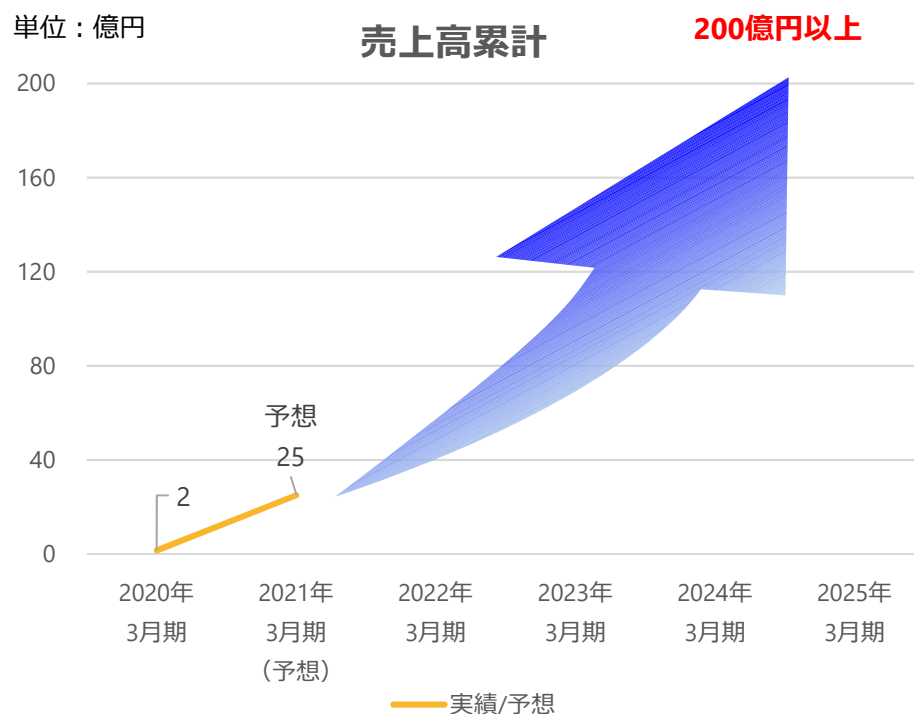
	シナジー	目標
①	メンテナンスとエンジニアリングの融合	計画から施工まで一貫した対応を行う大型機器の改造・改修工事の受注拡大
②	EPC体制および専門機能の強化と事業部の施工機能との連携強化	大型EPC案件の受注拡大
③	顧客ニーズを実現するため提案型アプローチ	装置の計画段階から参入し、顧客のエンジニアリングパートナーとしての関係の構築
④	大型タンク、特殊タンク（低温、球形）建設等のエンジニアリング技術と高い施工管理技術の融合	石油・化学業界のみならず、その他の業界におけるタンク案件の受注拡大
⑤	保有する特殊メンテナンス機材や固有技術の適用の拡大と有効活用	工期短縮・コストダウン
⑥	人材の適正配置と有効活用、ITや各種システムの導入・整備、調達方法の多様化など	業務の生産性の向上

売上高累計（シナジー効果）

（単位：億円）

売上高	2020年3月期 迄の累計	2021年3月期 迄の累計 (予想)	2022年3月期 迄の累計	2023年3月期 迄の累計	2024年3月期 迄の累計	2025年3月期 迄の累計
実績/予想	2	25	—	—	—	—

注）2020年3月期は実績値。2021年3月期は予想される値を算出



①2020年3月期は、「シナジー効果創出のための融合」の時期であり、目標額は設定していなかったが、シナジーによる受注獲得があり、シナジー効果を実現した。

②2021年3月期は、現在、受注獲得または獲得する見込みのある案件から、シナジーによる売上高を予測し算出。

③シナジーによる受注獲得・見込み案件は、タンクおよびEPC案件が大部分を占める。
これまで両社単独では獲得できなかった案件の受注（見込み）が多い。

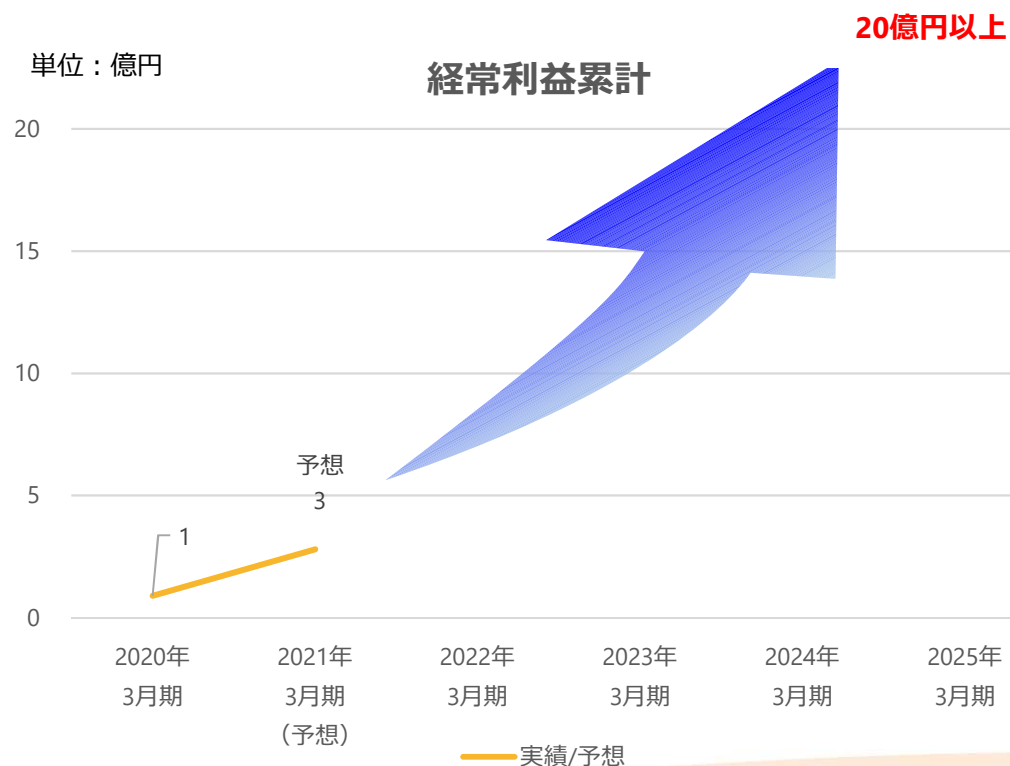
④第2次中期経営計画の最終年度までの目標達成に向け、長期的な視点からシナジーによる受注獲得・拡大を図り、売上高の向上を目指す。

経常利益累計（シナジー効果）

（単位：億円）

経常利益	2020年3月期 迄の累計	2021年3月期 迄の累計 （予想）	2022年3月期 迄の累計	2023年3月期 迄の累計	2024年3月期 迄の累計	2025年3月期 迄の累計
実績/予想	1	3	—	—	—	—

注）2020年3月期は実績値。2021年3月期は予想される値を算出



①2020年3月期は、「シナジー効果創出のための融合」の時期であり、目標額は設定していなかったが、シナジー案件の売上、経費の支出削減、調達方法の多様化などの効果により、シナジー効果を実現した。

②2021年3月期は、受注を獲得または獲得する見込みのある案件の利益獲得および生産性の向上による費用低減などを予測し、経常利益を算出。

③第2次中期経営計画の最終年度までの目標達成に向け、シナジー案件による利益増額、コスト低減、更なる生産性の向上を図り、経常利益の向上を目指す。

この資料には、2020年5月27日現在の将来に関する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動などに伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】

レイズネクスト株式会社

〒235-0017 横浜市磯子区新磯子町27番地5

経営企画部 業績・IRグループ

TEL：045-758-1953／FAX：045-758-1999

E-MAIL：ir-info@raiznext.co.jp

URL：https://www.raiznext.co.jp



レイズネクスト株式会社